

日本生協連が消費者庁に提出した意見とその回答

施策名	項目名	日本生協連の意見	消費者庁の回答
5. 食品表示制度の適切な運用と時代に即した見直しの検討	取組	<p>「<u>国際基準（コーデックス規格）との整合性の観点も踏まえて検討し、議論の結果を順次、食品表示基準等の見直しに反映させる</u>」について</p> <p>消費者庁の調査事業である「食品表示に関する消費者意向調査」の結果からは、消費者の食品表示の理解度は向上していません。このような状況で輸出拡大を目的とした食品表示基準等の性急な見直しがなされるのであれば消費者の利益にならないと考えます。過去に実施された論議を振り返った上で、消費者の商品選択に役立ち、利用しやすい、合理的な表示制度を目指す観点で慎重に検討を進めるべきです。</p> <p>「議論の結果を『順次』反映させる」という表現について、頻繁な制度改正は消費者の理解推進を妨げ、事業者負担も大きいので再考すべきです。</p>	<p>御指摘を踏まえ、当該箇所を「議論の結果を順次、食品表示基準等の見直しに反映させる。」から「有識者から成る懇談会において順次議論していく。」に改めました。</p> <p>国際基準（コーデックス規格）との整合性も踏まえた検討に当たっては、関係団体、学識経験者、消費者、食品関連事業者等を交えた議論を行いたいと考えています。</p> <p>また、消費者の食品表示の理解度向上に向け、引き続き消費者セミナー等を活用し、周知してまいります。</p>
	KPI（アウトカム指標）	<p>「<u>保健機能食品及び特別用途食品の製品数</u>」について</p> <p>保健機能食品等については、消費者が制度を正しく理解した上で製品を適切に選択し利用できるための普及啓発が最も重要ではないでしょうか。</p> <p>保健機能食品の一つである機能性表示食品の中には安全性や有効性の根拠が十分でないことや、表示や広告の問題が指摘されるものもあり、製品数が増えることは必ずしも消費者の利益につながらないと考えます。むしろ届出や広告に関するガイドラインの改善や執行強化を優先すべきではないでしょうか。</p> <p>また、保健機能食品等の製品数は市場動向にも左右されると思われ、消費</p>	<p>御指摘も踏まえ、保健機能食品及び特別用途食品については、中期の KPI(アウトカム指標)の記述を「保健機能食品及び特別用途食品の理解度」に修正いたしました。</p>

	<p>者庁が製品数を KPI にするのは違和感があります。</p> <p>以上の理由から本 KPI は工程表から削除すべきです。</p>	
--	--	--